

研究主題 「一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育の推進」に関する本校の実践

学校名 行田市立須加小学校

1 教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小・中連携(小中一貫)をとおして具体的にどのような取組をしているか。

1 はじめに

本校は、北に利根川の雄大な流れと利根大堰を眺め、赤松を中心とした須加野鳥の森に囲まれた自然豊かな学校である。全校児童60名は、地域の学校応援団の方々が温かく見守ってくださる中で元気に登校し、生き生きと意欲的に学校生活を送っている。



2 生徒指導上の課題

本校は、生徒指導基本目標に「心のふれあいを大切にした生徒指導の充実～心豊かな児童の育成をめざす～」を掲げている。少人数の良さを生かし、全教職員が全校児童について共通理解を深め、きめ細やかな生徒指導を実践している。3世代同居の家庭で育った児童が多く、全体的に素直で穏やかであり、非行・不登校・問題行動等の課題は少ない。一方、学級の単位が小さく、同じ学級集団で6年間過ごすことから、以下のような課題が生じている。

- ・学級の中での人間関係や一人一人の役割が固定化しがちである。
- ・自分の考えや思いを表現する(人に伝える)ことが苦手である。
- ・イレギュラーなことや困難なことへの対応が苦手である。
- ・中学校での学習や友だちづくりに不安を感じる児童もいる。

3 具体的な実践

(1) 小中連携をとおして

本校の大部分の卒業生が進学する見沼中学校や、同中学校区の他の小学校との連携を図り、中1ギャップなどの課題を未然に防ぐ取組みを実施している。

①学校だよりによる情報交換

中学校区3校の学校だよりを校内に掲示し情報交換を行っている。また、6年生は中学校の学年だよりを教室に掲示し、全員への配布も行う。中学校の様子を家庭で話題にすることで、中学校の生活や取り組みに理解を深めてもらっている。



②運動会への中学生参加

卒業した中学生を運動会に招待し、小学生との対決「ふれあいつなひき」を実施した。成長した中学生の強さやたくましさを感じて、中学生への尊敬や中学校へのあこがれの気持ちを持てるようにしている。



③学校公開日の交流参観

各校の学校公開日に、職員や保護者を対象に交流参観を実施している。運動会の振替休業日を利用し、小学生が

中学校を訪問する公開日を設定してもらった。参観日には職員が互いに見学に行っている。

④総合的な学習の時間でゲスト・ティーチャー

本校では4年生が、総合的な学習の時間で行田在来の青大豆を栽培しとうふや呉汁づくりに取り組んでいる。見沼中学校でも青大豆栽培、ゼリーフライづくりを行っており、中学校の先生をゲストティーチャーとして招いて、栽培のコツや青大豆の価値などを教えていただいている。



⑤見沼中学校区合同研修会の実施（夏季休業中）

- (ねらい) ・小中学校での児童生徒の実態や指導方針についての共通理解を深める。
・「目指す子ども像」や「授業の進め方」を小中学校で共有し、小中学校のスムーズな接続を図る。
- (内容) ・各校の児童生徒の実態や指導方針を伝え合う。
・小6、中1の授業（ビデオ）を見合う。
・課題を共有し、小中共通の「目指す子ども像」や「授業の進め方」を作成して、2学期からの実践に生かす。

⑥学校見学・体験授業

見沼中学校に進学する3校の6年生が中学校に集まり、学校見学や授業体験（体育・集団行動）を行った。中1生徒の模範演技を見学した後、他校の6年生と協力しながら、グルーピングや並べ替えなどの活動を行った。



⑦合同社会科見学

高学年（5、6年生）で、中学校区の北河原小学校と合同社会科見学を実施している。中学校入学前に互いの顔や名前を覚え、中学校での再会を楽しみにしている。

(2) その他の取り組み

①須加小よい子のきまり

生活、学習の基本的なルールを全校で共通理解するため、「須加小よい子のきまり」としてまとめ、全学級に掲示して学級での指導に活用している。

②とねの子「心の信号機」

学校生活に関するアンケート「心の信号機」を全校児童対象に実施し、児童の実態把握に努めている。年3回（各学期）の実施できめ細かく児童の変化を把握し、この結果をまとめた資料を用いて、全職員で生徒指導研修会を実施している。

③地域との連携

学校応援団に地域の多くの方が登録してくださり、登下校・学校行事・集会行事・授業など様々な活動を支援してくださっている。学校と応援団とで相互に児童の活動等について情報交換し、生徒指導に生かしている

4 おわりに

本校の卒業生が時折顔を見せ、中学校の様子をいきいきと話してくれることが、小中連携の実践一つ一つの積み重ねの成果であると感じる。また実践の中で小中の職員が顔を合わせ交流することが、活動の広がりにつながっていると感じる。さらに連携の仕方を考え、実践して、児童の「中学校への不安」が「中学校への期待」に変化するように進めたい。